

## 令和3年度 児童・生徒のスマートフォン等の所持状況及びインターネットの利用に関する調査結果について

### 1 調査目的

- (1)児童・生徒のスマートフォン等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。
- (2)令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況を把握し、学校や家庭が児童・生徒に一人1台端末を安心・安全に利用させるための一助とする。

### 2 調査対象

- (1)小学校：中野区立小学校21校 第4学年・第5学年・第6学年
- (2)中学校：中野区立中学校9校 第1学年・第2学年・第3学年

### 3 調査方法

一人1台端末を活用したGoogleフォームによる(無記名式)

### 4 実施時期

令和4年3月

### 5 平均回収率

- (1)小学校：86.7%
- (2)中学校：79.4%

### 6 調査問題

今年度は調査目的を踏まえ、新規の質問を追加した。

- (1)問2、問2-2 家庭で使うことができる自分のものではない通信機器について
- (2)問13～問16 令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況について

### 7 結果の概要

- (1)自分専用の通信系機器の所持率は、全小学校で80%、全中学校で95%で、特に小学校6年生を境に所持率が増加していく傾向にある。
- (2)通信系機器の使用時間の状況は、過去5年間で比較すると、小学校、中学校ともに通信機器の使用時間は、5年間で増加傾向にあると言える。  
「30分未満」、「30分以上1時間」の使用時間の割合が減少し、「3時間以上4時間未満」、「4時間以上5時間未満」、「5時間以上」の使用時間の割合が増加した。特に、コロナ禍にあった令和2、3年度に増加率が高い。
- (3)通信機器の利用については、全小学校、全中学校とも一番が「動画を見る」でそれぞれ67%、90%であった。

- (4)知らない人との会話やメールなどメッセージのやり取りは、学年が上がるに従い増加しているが、昨年度と比較すると、「はい」の回答は、全小学校では14%で8ポイントの減少、全中学校では40%で6ポイント減少しており、小中学校ともに減少傾向にある。
- (5)SNS学校ルールを「知っている」と回答した児童・生徒の割合は、令和2年度と比較すると、全小学校は79%（令和2年度：80%）、全中学校では73%（令和2年度：69%）であり、小学校では1ポイント減少し、中学校では4ポイント増加した。また、「知っている」と答えた児童・生徒の中で、肯定的な回答「守っている」と回答したのは、全小学校で95%、全中学校で85%であった。
- (6)家庭の中でSNS等に関するルールがあると回答した児童・生徒の割合は、全小学校は、79%（令和2年度：73%）全中学校は73%（令和2年度：64%）であり、小学校で6ポイント、中学校で9ポイント増加した。
- (7)一人1台端末（iPad）の使用時間については、全小学校、全中学校とも「30分未満」が一番多く、次いで「30分以上1時間未満」、「1時間以上2時間未満」であった。また、その利用については、全小学校では、「学校の宿題」と「持ち物の確認」が62%で一番高く、次いで「情報検索」が47%だった。全中学校では、「学校の宿題」が67%と一番高く、次いで「お便りを見る」が47%、「情報検索」が46%であった。

## 8 今後の取組

- (1)ほとんどの児童・生徒がインターネット通信が容易にできる環境にいることを前提として、教育活動全体を通じて、人間関係を築く力や社会性、規範意識を高める指導を行うとともに、様々な機会を捉え、「情報モラル教育」を推進する。
- (2)通信系機器を長時間使用する児童・生徒が増加している。学校から、学習面・健康面両方への影響について繰り返し指導するとともに、家庭において使用時間のルールを決めるよう啓発することを通して、児童・生徒自身が自らの生活を振り返り、自制する力を育成していく。
- (3)各校における保護者会やセーフティ教室等の機会や学校だより等により、情報モラル教育の必要性及び使用の長時間化への警鐘、架空請求やワンクリック請求等のデジタルコンテンツのトラブルへの対処方法等について保護者へ周知を図り、親と子で話し合いながら決めていく「SNS家庭ルール」づくりに向けての啓発を推進する。
- (4)トラブルに遭った際の適切な対処方法について学ぶ「SOSの出し方に関する教育」を今後も継続していくとともに、中学校については、SNSによる相談窓口「STANDBY」を周知し、相談しにくいことでも誰かに相談できるという環境を整える。また、教員や周りの大人には、研修等を通して児童・生徒からSOSを受けたときの対処方法を学び、適切な対応ができるようにしていく。

**令和3年度 児童・生徒のスマートフォン等の所持状況及び  
インターネットの利用に関する調査結果について**

**令和4年3月実施**

**中野区教育委員会**

## I 調査の概要

### 1 調査目的

- (1) 児童・生徒のスマートフォン等の所持の状況やそれらを使ってのインターネット等の利用状況を把握するとともに、それらを介した生活指導上の問題の未然防止及び早期発見・早期解決に向けた方策を講じるための一助とする。
- (2) 令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況を把握し、学校や家庭が児童・生徒に一人1台端末を安心・安全に利用させるための一助とする。

### 2 調査対象

- (1) 小学校：中野区立小学校21校 第4学年・第5学年・第6学年
  - (2) 中学校：中野区立中学校9校 第1学年・第2学年・第3学年
- ※ ただし、特別支援学級の児童・生徒については、児童・生徒の個々の状況を勘案し、校長が実施の必要性の有無を判断する。実施した場合は、該当学年の集計に含める。

### 3 調査方法

一人1台端末を活用した Google フォームによる（無記名式）

### 4 調査の実施時期等

- (1) 実施時期 令和4年3月
- (2) 実施時の対象者数・回答者数・回答率

	小学校	第4学年	第5学年	第6学年	中学校	第1学年	第2学年	第3学年
対象者 (人)	4987	1683	1617	1687	3331	1139	1103	1089
回答者 (人)	4320	1470	1436	1414	2646	960	889	797
回答率 (%)	86.7	87.3	88.9	83.8	79.4	84.2	80.6	73.1

### 5 調査問題

今年度は調査目的を踏まえ、新規の質問を追加した。

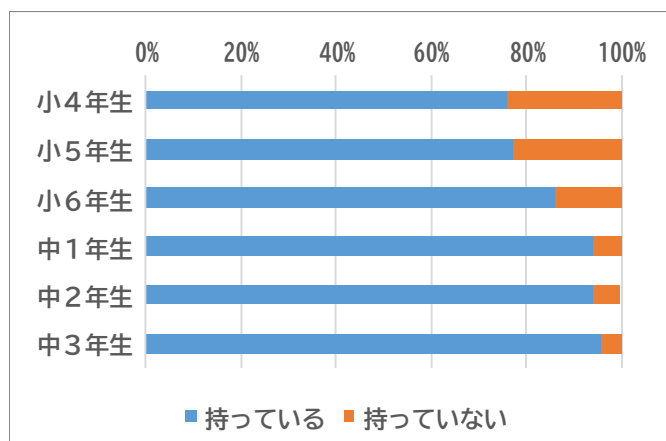
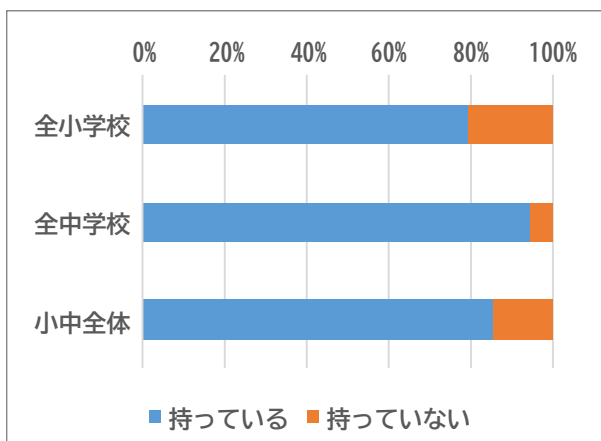
- (1) 問2、問2-2 家庭で使うことができる自分のものではない通信機器について
- (2) 問13～問16 令和3年度に貸与された一人1台端末(iPad)の利用状況について

## II 調査結果

### 問1～問12：家庭におけるスマートフォン等の通信機器の所持状況や利用状況について

問1 学校から貸し出されているタブレット(iPad)以外に、自分のスマートフォン、タブレット、携帯電話を持っていますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
持っている	80%	95%	85%	持っている	76%	77%	86%	94%	94%	96%
持っていない	20%	5%	15%	持っていない	24%	23%	14%	6%	6%	4%



#### 【分析】

昨年度からは、持っている機器の種類を「通信機能付携帯ゲーム」ではなく「タブレット」の所持についてに変更した。

自分専用の通信系機器の所持率は、学年で比較すると、小学校4、5年生のおよそ75%から6年生で所持率が86%に増加し、さらに中学校1～3年生では、およそ95%の所持に増加している。

昨年度と比較して、全小学校では7ポイント減少したが、「通信機能付携帯ゲーム」ではなく、問2「家庭で使うことができる自分のものではない通信機器」が「ある」と回答した児童の実態を踏まえると、ほとんどの児童・生徒がインターネット通信が容易にできる環境にいると考えられる。

### 問1-2 「持っている」と回答した人に聞きます。持っている機器の種類は何ですか。(複数回答可)

	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
スマートフォン	65%	95%	78%	スマートフォン	51%	59%	84%	94%	92%	98%
タブレット	48%	38%	44%	タブレット	51%	51%	43%	41%	40%	34%
携帯電話	33%	8%	22%	携帯電話	45%	38%	16%	10%	8%	7%

#### 【分析】

通信機器の割合で見ると、「スマートフォン」の所持率が、全中学校で95%。また、小学校では「スマートフォン」の所持率が小学校4年生の51%から学年を追って増加し、小学校6年生で84%となっている。一方で、「携帯電話」は小学校4年生の45%から学年を追って減少していき、中学校3年生では7%である。

最初は「携帯電話」を持たせていた家庭が、小学校6年生を境にして「スマートフォン」を持たせるようになっていき、中学3年生では自分専用の通信機器は、ほぼ「スマートフォン」になっている状況である。また、「タブレット」については、全小学校で48%、全中学校で38%の所持率となっており、「スマートフォン」との併用や「携帯電話」との併用も含め、一定程度の所持率がある。

問2 問1で「持っていない」と答えた人に聞きます。

学校から貸し出されているタブレット(iPad)以外に、家庭で使うことができる自分のものではないスマートフォン、タブレット、携帯電話はありますか。

	全小学校	全中学校	小中全体		小4年生	小5年生	小6年生	中1年生	中2年生	中3年生
ある	66%	57%	65%	ある	63%	69%	67%	63%	62%	39%
ない	34%	43%	35%	ない	37%	31%	33%	38%	38%	61%

【分析】

今年度新規の質問である。

自分専用の通信機器を持っていなくても、家族との共用の「スマートフォン」や「タブレット」、「携帯電話」が家庭にあるかどうかを調査するために新設した。

結果は、小学校4年生から中学校2年生まではおよそ6割、中学校3年生でおよそ4割の家庭が所有していた。

問1と問1-2と合わせて考えると、自分専用の通信機器を持っていなくても、多くの児童・生徒は家庭で通信機器を利用できる状況にあると捉えることができる。

問2-2 家庭で使うことができる自分のものではない機器の種類は何ですか。(複数回答可)

	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
スマートフォン	59%	66%	60%	スマートフォン	60%	55%	65%	66%	58%	85%
タブレット	61%	51%	59%	タブレット	62%	61%	57%	46%	52%	46%
携帯電話	22%	23%	22%	携帯電話	19%	25%	24%	29%	16%	23%

【分析】

問2同様、今年度新規の質問である。

小・中学校全体を通して、「携帯電話」の割合はおよそ20%で、「スマートフォン」または「タブレット」の割合がおよそ60%という回答であった。

家庭の状況にもよるが、使わなくなった保護者や兄弟の「スマートフォン」や「携帯電話」を児童・生徒が利用したり、「タブレット」を複数台所有していて、自分専用ではなくても児童・生徒が比較的自由に利用できたりする状況があると考えられる。

問3 スマートフォン、タブレット、携帯電話は、1日にどのくらい使っていますか。

令和3年度	全小学校	全中学校	小中全体		小学校4年生	小学校5年生	小学校6年生	中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
30分未満	23%	5%	16%	30分未満	33%	24%	13%	6%	5%	3%
30分以上1時間未満	18%	8%	14%	30分以上1時間未満	22%	19%	14%	9%	9%	5%
1時間以上2時間未満	23%	20%	22%	1時間以上2時間未満	20%	24%	24%	21%	23%	18%
2時間以上3時間未満	15%	27%	20%	2時間以上3時間未満	11%	15%	19%	26%	25%	29%
3時間以上4時間未満	9%	16%	12%	3時間以上4時間未満	6%	7%	14%	15%	15%	18%
4時間以上5時間未満	4%	9%	6%	4時間以上5時間未満	3%	4%	6%	9%	8%	9%
5時間以上	7%	15%	10%	5時間以上	4%	7%	10%	13%	15%	18%



















